

2015年3月4日(1/1枚)

三菱地所アルティアム | 谷川俊太郎の詩と川島小鳥の写真で旅する〈タマシヒ〉の世界

Kotori Kawashima + Shuntaro Tanikawa Good Night gods

川島小鳥+谷川俊太郎 おやすみ神たち 展覧会のお知らせ

【会期】 2015年3月7日(土)ー4月12日(日)

詩人・谷川俊太郎と写真家・川島小鳥の初めての共著・作品集『おやすみ神たち』に収録された
 写真と詩を再構成し、本の世界を体感できる展覧会を開催。



©Kotori Kawashima

ひとき
 長い年月を経てやっと
 その日のそのひときが
 いまだに終わっていないと悟るのだ
 空の色も交わした言葉も
 細部は何ひとつ思い出さないので
 そのひときは実在していて
 私と世界をむすんでいる
 死とともにそれが終わるとも思えない
 そのひときは私だけのものだが
 否応無しに世界にも属しているから
 ひときは永遠の一隅にとどまる
 それがどんなに短い時間であろうとも
 ひときが失われることはない

©Shuntaro Tanikawa

日本の現代詩を牽引し続ける谷川俊太郎氏。83歳の現在も精力的に創作活動を行い、本作のために全27篇の新作を書きおろしています。谷川氏による三菱地所アルティアムでの展覧会は1992年以来、23年ぶり。一方の川島小鳥氏は、写真集として異例の11万部を突破した『未来ちゃん』以後、3年をかけ、台湾での撮影を行った本作では、彼の新たな境地をみせています。二人の年齢差はおよそ50歳。台湾にて撮影された川島氏の写真に触発された谷川氏の詩は、その写真に乗って〈タマシヒ〉の世界を旅し、年齢差を超えて共振。詩と写真という異なる表現世界を行き来します。目に見えない“たましい”に思いを馳せ、表現することに挑んだ意欲作。写真と言葉の空間を堪能できる展覧会です。

【会期】 2015年3月7日(土) - 4月12日(日)

※3月17日(火)は休館日

※3月21日(土・祝)はイベントのため18:00閉場

【時間】 10:00～20:00

【会場】 8F三菱地所アルティアム

【入場】 一般400円／学生300円

【問合せ】 092-733-2050

【川島小鳥来場!! オープニングレセプション】

【日時】 3月7日(土) 18:30-19:30(展覧会は20:00まで)

【申込】 予約不要、無料

【「おやすみ神たち」朗読とスライドの会】

出演：谷川俊太郎、川島小鳥

【日時】 2015年3月21日(土・祝) 18:30～20:00

【参加費】 1,000円 定員：90名

【参加方法】 要予約・先着順

※店頭先行受付3/7(土)～電話受付3/8(日)10:00～

※店頭先行受付は一定数に達し次第終了させていただきます。

一度の申込み人数には制限がございます。ご了承ください。

※川島氏、谷川氏の取材依頼は三菱地所アルティアムへお願いいたします。

三菱地所アルティアム092-733-2050



©Kotori Kawashima

【左】谷川俊太郎 (Shuntaro Tanikawa)

1931年生まれ。詩人。1952年第一詩集『二十億光年の孤独』を刊行。1962年『月火水木金土日の歌』で第四回日本レコード大賞作詞賞、1975年『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞、1982年『日々の地図』で第34回読売文学賞、1993年『世間知らず』で第1回萩原朔太郎賞、2010年『ロムソロジー』で第1回鮎川信夫賞など、受賞・著書多数。詩作のほか、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表。近年では、詩を釣るiPhoneアプリ『谷川』や郵便で詩を送る『ポエメール』など、詩の可能性を広げる新たな試みにも挑戦している。

【右】川島小鳥 (Kotori Kawashima)

1980年生まれ。写真家。早稲田大学第一文学部仏文科卒業。一人の少女を4年間にわたって撮り続けた『BABY BABY』で、第10回新風舎年間写真大賞を受賞。2010年には佐渡島の一人の少女を撮影した作品『未来ちゃん』を発表。同名の自主制作写真集がロコミで話題となり即完売。2010年12月発売の『BRUTUS』(No.699)では表紙を飾り、2011年『未来ちゃん』(ナナロク社)で第42回講談社出版文化賞写真賞を受賞、販売数は異例の11万部を突破。同名の写真展は日本、台湾、タイ、ベトナムの4か国11都市で開催された。